

【ゆりりん通信】Vol.2

蝉の音が聞こえる季節となりました。

前回、「ゆりりん通信」を読んでいた方々から、「もっと事例を教えて欲しい」という声を頂き、大変嬉しく思っております。

今回の事例も今後の施設内での排泄ケアのご参考になれば幸いです。



「ゆりりん」って何？
膀胱内の尿量を超音波で測定する機器です。

【ゆりりんケースファイル No.2】

- ・名古屋市内の訪問看護ステーション
- ・バルーンカテーテル留置の80歳代(女性)
- ・本人からバルーンカテーテル抜去の強い要望あり。
- ・本人と家族(夫)は自己導尿に不安を持つ。

【看護師の訪問時の対応】

- 1.看護師が訪問する2時間程前にカテーテルをクリップして膀胱に蓄尿できるのかを「ゆりりん」にて確認
- 2.蓄尿出来たことを確認後、トイレで自己排泄出来るか確認
- 3.自己排泄後の残尿を「ゆりりん」で確認

【ゆりりんの使用後の家族の反応】

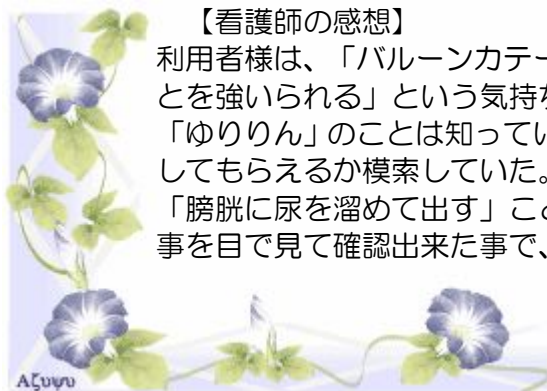
- 1.膀胱に蓄尿出来、排泄も自分で出来た。
- 2.どれだけ膀胱内に残尿があるのかわからないのかわかることが出来る安心感が持てた。
- 3.トイレでの排泄の快適さと残尿の少なさから、自己導尿は1日1回で良いという見解から利用者本人の「やる気」が生まれた。

【経過と現状】

バルーンカテーテル抜去後、2週間程1日1回夜寝る前に自己導尿を実施。
現在は、週2回看護師が訪問時に導尿。

【看護師の感想】

利用者様は、「バルーンカテーテル留置は不快だが『自己導尿』という未知のことを強いられる」という気持ちから前に進めなかった。
「ゆりりん」のことは知っていたが、具体的にどのように使って利用者に理解をしてもらえるか模索していた。
「膀胱に尿を溜めて出す」ことが出来、残尿も100mlに満たない(初回測定)事を目で見て確認出来た事で、利用者本人が前向きになれた。



「ゆりりん」についてのご質問・
お問い合わせは下記の電話に
お願い致します。
TEL:0120-33-0405